

# 人気のオーブントラップモデルにリバーブスモデルが登場。「重厚に吹けて操作性も良い」(玉木優氏)

ヤマハ・ゼノ・トロンボーン  
 のオーブントラップモデルにリバーブスモデル882OR(ゴールドブラスベルGOR)が登場した。ゼノのオーブントラップモデルYSL-882ORはヤマハのテナーバス・タイプの中でも根強い人気を誇り、新モデルの投入で選択肢がさらに広がった。

主菅だけでなくF管もリバーブス式にしたのはヤマハではこれが初めて。さらにベルとF管をつなぐ支柱がなくなり、ベルが「フリー」になっている。マウスパイプを交換式にしたのも太管テナーバスではヤマハ初。楽器付属のイエローのほか、オプションでゴールドブラスと純銀の二つのマウスパイプを発売した。

他にYSL-882Oと異なるポイントには、YSL-882Vと同様、スライドがワイドになりF管のピッチ(幅)もワイドになったこと。

スライド先端にはレスポンス向上のためニッケルが使用されている。さらに大きな違いは、新開発の「バランスド・レスポンス・ローター」



YSL-882ORを吹く玉木優さん。

「ローター」が採用されたことだろう。下の写真のように小さなベントホール(空気穴)を開けることで、F管に切り替えた時の気密の変化から生じるタイムラグや雑音などを軽減する。ローターは全体の重量もやや軽くなり、メンテナンスは従来のローターと同じように出来るという。

このモデルは、ユタ響首席のラリー・ゾルカンド氏が開発協力者となって「シンフォニックな音質と吹奏感のバランスをテーマに」設計され、すでにシアトル響首席の山本浩一郎氏も使用している。昨年の日本管打楽器コンクール1位入

賞者で、この度東京俊成ウィンドオーケストラへの入団が決定した玉木優氏(写真)も愛用者の一人。玉木さんにその吹奏感を聞く。「ヤマハの従来のオーブントラップモデルよりも息が入り音量もアップした感じだ、かつ響きはダークです。それでもセイヤーバルブと比べれば息は取られず、息のコントロールはやりやすい。つまりは重厚にも吹けて操作性も良いという、とてもバランス良くスムーズに吹けるモデルです」



左が新開発の「バランスド・レスポンス・ローター」。小さな空気穴を開けてF管時の吹奏変化を軽減する。

は、より重厚でどっしりとした音になり、純銀はより指向性のある音が前に飛ぶ感じですね」と説明する。

価格はイエローブラスが36万7500円、ゴールドブラスが38万8500円、マウスパイプはゴールドブラスが1万8900円、純銀が4万2000円(いずれも税込)。

マウスパイプはヤマハで初めて着脱交換式を採用。



ヤマハYSL-882OR……¥367,500(税込) ヤマハYSL-882ORR……¥388,500(税込)  
 いずれもケースが付属。

